

ECC 国際外語専門学校 学校関係者評価報告書及び評価結果の活用状況

学校法人山口学園 ECC 国際外語専門学校 学校関係者評価委員会は、2017年9月9日に「2016年度自己評価報告書」に基づいて学校関係者評価を実施し、評価結果を学校運営に以下のように活用しましたので報告いたします。

2017年9月24日
学校法人山口学園
ECC国際外語専門学校
学校関係者評価委員会

1 学校関係者評価委員（「ECC国際外語専門学校 学校評価実施規定」選出区分）

関連業界関係者 「同第12条第1項（1）」

<u>委員長</u>	明松 克己氏	バイエリアサービス株式会社 代表取締役 (都合より欠席)
	三橋 滋子氏	日本添乗サービス協会 (委員長代行)
	小椋 圭一郎氏	社会福祉法人 博愛社
	下西 由子氏	セントレジスホテル大阪
	塩谷 典子氏	(株)TEI

卒業生 「同第12条第1項（2）」

栗岡 史哉氏 卒業生（神戸大学経済学部）

保護者または地域関係者 「同第12条第1項（3）」

猿木 唯資氏 済美福祉センター連合運営委員会

ECC 国際外語専門学校 学校長 伊藤 功

同席者

福本 雄三	ECC国際外語専門学校 副学校長
大谷内 圭	ECC国際外語専門学校 教務課責任者
東井 喜美	ECC国際外語専門学校 英語課
松岡 佑治	ECC国際外語専門学校 教務課（書記）
三木 武志	学校法人山口学園 自己点検評価室

2 実施日時：2017年9月9日（土） 14：40-15：40

3 実施場所：ECC国際外語専門学校 1号館9F 901教室

4 議題内容

(1) 開会挨拶・参加者ご紹介・新任委員ご紹介

済美福祉センター連合運営委員会 猿木様、卒業生（神戸大学経済学部） 栗岡様が今回初参加。

(2) 2016 年度学校運営振り返り

①募集、教務課 2016 年度の振り返りとしては、

2016年4月の入学者数、在籍数を紹介。募集が好調な理由として、コースの進路実績、特にエアライン、大学編入コースの実績が浸透している。入試の募集システムとしてAOエントリーなどによる早期の学生募集の成功が大きい。

2016年3月末時点での進級率、卒業率を説明。進級率の低迷などは今後の課題として捉えている。学生の授業・学校満足度については、主だった担任満足度、授業満足度などで若干数値が落ちている。改善を加えた結果、2017年度前期については、回復をしている。

②英語の取り組みとして、2017年3月に日本英語能力検定協会より文部科学大臣賞を受賞した。背景として、TOEIC 取得得点、英検1級、準1級の合格者数の伸びがある。英語課を発足させ、ELCという個別指導の設備の設置、英検準1級のレギュラー授業化などの結果である。また、留学にも力を入れ、セブ島での個別指導も定着してきている。

③進路の実績について、2016年度は就職希望者全員が就職内定している。エアラインでは日本航空様、全日空様、トラベルでは HIS 様、ホテルではインターコンチネンタル大阪様、グランドハイアット様などに内定をしている。また特に力を入れた点として、語学留学コース、総合英語コース、国際ビジネスコースなどで早期の就職活動を開始し、就職実績が向上した。国公立・難関私大への大学編入実績も着実に合格者数を伸ばしている。

【評価委員の方からのご意見】

塩谷様

「ビジネス系コースに興味があるのだが、どのような授業が展開されているのか」という質問に対して

(学校側回答、今後の取り組み)

ECC が母体で、半分が英語、半分が専門ということもあり、エアライン、ホテルなどであれば、その業界に就職することを目指した専門力を養成する。ビジネス系のコース、例えば総合英語コースは英語に注力したコース、語学留学は英語に注力に加えて留学ということがセットになる。英語が中心という授業になっている一方で、出口を考えると、こういった所に就職出来るのかの方向性が示しにくい。そういった点について、英語力を武器にしてこういった業界に就職できるのかなどの業界研究をさせたり、空港見学、先輩からのアドバ

イスなどからしっかりと仕事を理解したうえで就職をしていくように取り組んだ。国際ビジネスコースでは、英語に加えて出口は商社、物流業界を目指すコースである。少し専門力が弱かったということがあり、業界就職をしきれない部分があった。今年度はそういった点を改善し、専門力を身に付けて就職につなげることが出来た。

下西様

「就職後の継続率はどの程度か、調査はされているのか」という質問に対して
(学校側回答、今後の取り組み)

その点については、学校としての課題であると考えている。これまでは、就職率 100%ということを目指していたが、卒業後の定着率も 100%を目指そうと取り組みつつある。まずは、卒業生の追跡調査をするということを手始めに、今後取り組んでいく予定である。

(3) 自己点検評価の報告

学校長伊藤より「2016年度自己評価報告書」の内容を説明(1)

学校理念、職業教育の特徴、将来構想については、長年の学校運営の中でしっかりと培うことが出来ている。

学校理念、将来構想を学生、保護者に周知するという点は徹底できていない。学生オリエンテーション、保護者会年2回、今年2017年から入学式後に保護者も交えた入学オリエンテーションを実施しており、理念、目標、学校の方向性を周知徹底していくことが今後の課題である。

学校運営のスローガンは国際力、専門力、人間力を身につけた上で、国際派の進路を実現するということを学生へ常に周知、教職員にも年数回徹底している。

運営方針、事業計画、運営体制は、年当初に学園で決定したものを、運営体制図に従って年度更新しながら運営を行なっている

人事、給与について、就業規則、給与規定を設けている。

情報システムについて、学園サポート本部の中に総務課を設けて管理している。

下西様

「保護者への周知について、具体的にどのようにして、どのような項目をアピールポイントとして周知していくのか」という質問に対して

(学校側回答、今後の取り組み)

保護者の参加率が高い入学式において、こういう人物を目指すという大目標を示すということを行なった。年4回出欠状況・成績状況の報告送付の際に、保護者宛の担任コメント欄を設けるようになった。年2回の保護者会を実施している。これらを通じて、学校像の伝達、学生の学びや学校教育に興味を持って頂き、コミュニケーションがとりやすいようにしている。

就職保護者を 10月に実施し、学校の指導内容、就職動向について説明をしている。しっかりと学校だけでなく、家庭でも就職目標の達成のための協力関係を築けるようにしている。

学校長伊藤より「2016年度自己評価報告書」の内容を説明(2)

年度ごとにハンドブックを発行しており、理念を含めてスケジュール、コースごとのカリキュラム、目標到達、教務規約、成績評価・単位認定、資格検定スケジュールなどを入学オリエンテーション、進級オリエンテーションで配布し、説明をしている。

授業評価の体制について、年2回の学生アンケートをもとに実施している。評価が低い場合には面談を実施し授業改善を図るなどしている。一方で良い授業を互いに見学し合うなどについては十分に出来ていない。

教員確保について、コース内教員によるOJTを中心とした教員研修、年度更新される先生方の給与見直しをしているが、年度末に急遽採用する場合もあり、安定的に良い先生を確保出来る体制とはなっておらず、課題である。

外部評価、業界団体との連携、職業教育のインターンシップ・実習については、職業教育専門課程を持つコースは教育課程編成委員会が実施されているが、そうでないコースについては外部の方にご意見を頂く機会を設けていかなければならない。

他の学校にはないカリキュラムとして、海外インターンシップコースがある。2017年3月に第1期生が卒業し、企業様からの評価も高い。自分の言葉で経験したことを語れるという点が評価されている。

ホテルコース、エアラインコースなどで3年間を通じて力を付けていくようなコース開発を行なっている。

学習成果、学習支援について、2年間で平均資格取得数3~4個取得する。

休・退学率の低減について、入学後すぐ来れない学生、1、2ヶ月で来れなくなる学生などが多くなってきている。背景としては、全日制を前提としない学生、進路を決めかねている学生、家庭環境が厳しい学生などが増えている。そういった学生にリベンジしてもらえるように、補講制度の充実、授業内容の理解に注力している。卒業生との関係性・絆をつなぐための機会として、11月12日に同窓会(校友会)を実施、発足する予定をしている。

小椋様

「資格取得について、特にこどもコースの学生については将来が見づらい、学校教員、インターナショナルスクール、保育所、幼稚園など、どのタイミングで見極めていくのか、明確化するのが課題」「教員の確保について、労働条件の問題もあるので考えて頂ければ」「同窓会について、非常に良い。近い年齢の方に話をうかがうことが出来る機会は良い」「退学などについて、学内における奨学金、支援体制を組んで頂ければ」という質問に対して

(学校側回答、今後の取り組み)

労働条件については、法令遵守で実施している。頑張ってください先生が多く、しっかり運営側がカバーしていくようにしたい。また、奨学金などを含め学生の学修継続に向けた支援体制について、検討をしていく。

栗岡様

「交友会について、大学編入コースの場合は大学 1, 2 回生を専門学校で過ごすため、就職活動をする際など大学のコミュニティを作るのが難しい部分があり、就職活動の情報を得るのが難しい。そういった際に、大学 4 回生の先輩方に就職活動の情報をもらうことによって、就職活動もしやすくなるのかなと考えている。」「交友会をどのように人を集めるのか、学校側が働きかけるだけでなく、私のように代表として来ている学生が中心となって呼べるように出来たらと思います」という質問に対して

(学校側回答、今後の取り組み)

校友会は、コースごとの分科会のような形で考えている。集め方については、アイデアを募っている。担任など直接学生と関わる部署の関係者は、卒業後も学生とつながっている。そういった小さなグループから、拡げていきたい。

学校長伊藤より「2016 年度自己評価報告書」の内容を説明 (3)

教育環境について、ICT 環境の充実、休憩スペース、エレベータが学生アンケートで出てきている課題である。梅田という立地上、9 階という高い建物の中で、なかなかゆっくりするスペースがない、エレベータがなかなか来ないなどの問題がある。なかなか、建物の改善などハード面での改善が難しく、ソフト面でのサポートを行なっている。その代表として、学生が英語の個別指導を空き時間にしてもらえる ELC の開設がある。各種教材の開発も行い、学生のレベルに応じた学習機会を提供している。前期の段階で、のべで 3500 名が利用した。全体指導、個別指導のコンテンツ充実、EIP の定着などで、ソフトの充実を図っている。ハード面ではホテル実習室の拡充を行なっている。

三橋様

「随分雰囲気が変わった。ソフト面の充実という点で、学生さんはすごく恵まれている。意欲がある学生さんであれば、いくらでもセンターに来て自分のスキルをアップさせることが可能な仕組みになっている点に感心した」と言う御意見

学校長伊藤より「2016 年度自己評価報告書」の内容を説明。(4)

本校は社会貢献センターを設置し、社会貢献、地域貢献に力を入れている。また中崎町様には非常にお世話になっている。清掃活動や行事への協力など力を入れている。地域への恩返しだけでなく、学生自身が成長する機会として地域の方、社会とのつながりという部分で、

学校を飛び出して活動をしていくという点に力を入れている。ホテル実習室を使ったカフェの開催、英語を使って大阪駅付近でのボランティア通訳、案内、観光客のエスコートなどに力を入れている。学校の授業だけでは学べない、様々な経験をしていくことが出来、そういった活動をしながら成長していく。

国際交流については、別途日本語学科があり数多くの留学生がいると共に、専門課程で学ぶ留学生もいる。また、海外に出て行く方にも力を入れている。前期ピーク時には、8カ国183名の学生が留学、海外研修を行なっている。出来るだけ、英語をアウトプットする機会を設けている。

課題として、海外で教育成果が評価されているかが挙げられる。

猿木様

「学生のボランティアへの参加を積極的に奨励していただき、特に中崎町の清掃活動・クリーン中崎町に多くの学生に参加して頂いている、毎月1回だが今後も積極的に参加していただけるように希望します」と言う御意見

全ての報告が終了、全体を通しての感想、御意見。

三橋様

「日本人学生が100%入学された場合に、海外留学生を一定程度受け入れる枠を設けているのか」という質問に対して

(学校側回答、今後の取り組み)

大きな方針としては、学校の中のグローバル化を考えている。日本語学科では40カ国の留学生が来ている。EJPという仕組みもあり、留学生と日本人の交流の場を設けている。出来る限り、学校の中にグローバルな仕組み、海外、異文化を経験できる仕組みを作ろうとしている。現時点で、一定枠を必ず留学生をとろうという制度はないが、日本語学科を中心として留学生を積極的に受け入れようとしている。

三橋様

「どのように海外の方々にアピールをしているのか」という質問に対して

(学校側回答、今後の取り組み)

エージェントからの紹介が多かったが、積極的に日本に留学をお考えの国の中の機関、エージェントに働きかけている。

三橋様

「そういった留学生の卒業後の進路は」という質問に対して

(学校側回答、今後の取り組み)

日本語学科の留学生は、大学、大学院へ進学する方がほとんどであり、本校の専門課程に進学される方は日本で就職を希望される方がほとんど、その中で本国と日本の架け橋にな

って本国へ帰国後に就職する方もいる。

塩谷様

「色々なことに取り組んでいらっしゃることに感心している。卒業生とのパイプを今後どのようにしていくのか、宣伝・広告と言うのは人から人へと広がっていくもの、学校長が仰っている海外へ ECC のブランドを拡げていくためには、卒業生を一つにまとめて既存の学生、卒業生、海外留学生と全てが ECC で集まる機会を設けることが出来れば色々なチャンスが出てきたり、取り組むことが出来る部分があるのではないか」という御意見

下西様

「学校が方針とされている国際力、人間力、専門力のバランスが取れている。その中でも人間力というのは社会貢献、地域貢献のなかで育まれるものであり、そういう力はどういうところに就職しても必要となる大事な部分である。何人か卒業生に就職いただいているが、どこの部署でも人が良いという声が出ている。業務は後から教えることが出来るが、入ってから教えるにくい部分で声が上がってくるというのは強みになるのではないか」という御意見

小椋様

「こどもコースの実習が終わったあとのボランティアなどが、以前は単位認定されていたが今年度はないようだ。こどもと継続的に関わっていくことの素晴らしさを理解してもらえ。学校・福祉関係でのインターンシップが難しいと思われるが、学生が単位を修得しながら、そういった学びが出来る機会を考えてもらえればと思う。また、海外の方の就職先等も聞きたい。福祉関係では東南アジアの方がおられる。日本語学科を卒業する段階で、どのレベルで日本語能力があるのか」という御意見、ご質問に対して

(学校側回答、今後の取り組み)

専門課程への入学要件としては、N2 レベルとなっていて、卒業時に N1 レベルが取れるように設定している。授業が全て日本語で行なわれるため、理解レベルとして設定している。それに満たない場合には、日本語学科でしっかりと日本語力を身につけてもらっている。ただし、日本語学科の方でも日本語力が低い層も受け入れるコースも作り始めており、そのコースの要件は N3 となっている。

栗岡様

「施設・制度の面で、在籍していたときもよりもすごくもっと充実している。私自身もこの学校の助けてもらったというか、自主的に勉強することの喜びを教えてもらったので、そういう環境がさらに充実したというのが感想です。卒業生の交流会について、各大学にも卒業生が交流する組織があるので、継続的に今後作ってもらえれば良いなと、私も協力していき

ます」という御意見。

猿木様

「少子高齢化によって大学などで学生が減っている中で、学園全体、国際外語専門学校とも学生数を維持、伸長させていることに驚いている。地域の代表として、さらに地域貢献していただきたい。地域が高齢化していて、お年寄りの中でも英会話に興味を持っている層が多いので、そういった点でも地域と交わる機会があれば良いのでは」という御意見。

(4) まとめ

本校は地域の方をはじめ、やはり ECC に来てよかった、卒業する時に良かった、がんばったという学生を育てていけるように、皆様のご意見と学生からの要望を聞きながら、それに応じていける、そして卒業時にその後の進路でしっかり力が付けられるような学校にしていくことを教職一同の共通の目標として今後も継続していく。

以上